

2. ブラジル政治情勢（2月の出来事）

【内政】

（1）上下両院議長選挙結果

1日、連邦上下両院において議長選挙が行われ、ロドリゴ・パシェコ上院議員（民主党）が上院議長に、アルトゥール・リラ下院議員（進歩党）が下院議長に当選した。任期はいずれも2年間（2023年1月まで）。

（2）連邦議会第56会期・3年目の開会に関する特別セッションの開催

3日、上院本会議場において、連邦議会第56会期3年目の開会に関する特別セッションが開催された。ボルソナーロ大統領は、昨年12月に同大統領が署名した新型コロナワクチン購入向け特別融資枠の開設に関する暫定措置令の承認の重要性を強調した上、議会と大統領府の団結を呼びかけた。

（3）閣僚の交代

12日、ロレンゾーニ市民大臣が大統領府事務総局長官に就任し、ジョアン・ローマ下院議員が市民大臣に就任した。

（4）銃器所持の要件緩和に関する大統領令の発出

（ア）12日、連邦政府は、銃器及び弾薬の購入に関する2019年に発出された大統領令を修正する旨の大統領令4件を発出した。これに伴い、銃火器登録証の所有者は銃器を最大6丁まで所有することができる等の規制緩和が図られる。

（イ）16日、今般の大統領令4件を無効化する旨の法案が上院に提出された。なお、同大統領令には、官報掲載日（12日）から60日後に発効する旨記載されているところ、本法案が期日以内に成立しない場合、同大統領令は効力を発することとなる。

（5）ダニエル・シルヴェイラ下院議員の逮捕及び身柄拘束の維持

16日、ダニエル・シルヴェイラ下院議員（PSL）は、連邦最高裁判事を誹謗中傷し、最高裁の閉鎖を求めるビデオメッセージを公開した後に現行犯逮捕された。19日、下院にて投票が行われ、同議員の身柄拘束の維持が決定された。

（6）ボルソナーロ政権の支持率

22日、伯全国運輸連盟（CNT）及びMDA社による合同世論調査の結果が発表され、政権支持率は前回調査（2020年10月：41.2%）から低下して32.9%となった。

【外交】

(1) 伯墨外相電話会談

2日、アラウージョ外務大臣は、エブラルド墨外務大臣との間で電話会談を行った。アラウージョ外相は、同電話会談を通じ、伯墨両国がインターネットにおける表現の自由についてG20で協働することとなった旨ツイートした。

(2) ラカジェ・ポウ・ウルグアイ大統領の訪伯

3日、ボルソナーロ大統領は、ブラジリアを訪問中のラカジェ・ポウ・ウルグアイ大統領との昼食会を行った。ボルソナーロ大統領は、記者会見において、第三国との貿易を円滑化する可能性や電力及びインフラについてラカジェ・ポウ大統領と協議した旨述べた。また、ボルソナーロ大統領は、メルコスール4か国首脳による会合が3月末にブラジルで開催される予定である旨発言。

(3) 伯イスラエル関係

12日、ボルソナーロ大統領は、ネタニヤフ・イスラエル首相と電話会談を行った後、新型コロナウイルス感染症に関し、イスラエル製医薬品の治験への伯の参加につき同首相と協議した旨ツイートした。その後、アラウージョ外務大臣は、アシュケナジー・イスラエル外務大臣との間でテレビ会談を行った。

(4) 伯米関係

(ア) 11日、アラウージョ外務大臣は、ブリンケン米國務長官と電話会談を行い、民主主義の重要性、貿易、気候変動、人権の促進等の問題に関する二国間協力につき協議した。

(イ) 17日、アラウージョ外務大臣及びサレス環境大臣は、ケリー米気候変動問題担当大統領特使との間でリモート会議を実施した。同会議では、伯米間の気候変動及び違法森林伐採対策の分野における協力及び対話の可能性が検討された。更に、共通の気候課題に対する持続可能で永続的な解決策を探るため、頻繁な会合により構成されるプロセスを伴う二国間対話を深めることが合意された。

(5) 国連人権理事会開会式におけるアラウージョ外務大臣の演説

22日、アラウージョ外務大臣は、オンラインで開催された第46回国連人権理事会開会式の演説において、現在の最大の困難は技術的全体主義であると述べた。同外相は、情報通信技術によって簡単且つ広く情報にアクセスすることが可能になったことで表現の自由のための新たな基盤が出来上がったものの、これらの技術は益々検閲や監視に晒され、社会操作のメカニズムの創造に利用さ

れていると発言した。

3. トピック

(1) 第14回元国費留学生同窓会全国会合の開催

2月6日、山田大使は、日本国大使館とブラジル元国費留学生同窓会と共催で実施した「第14回元国費留学生同窓会全国会合（Encontro Nacional）」にオンラインで参加した。山田大使は開会の挨拶を行うとともに、ブラジルにおける新型コロナウイルス感染症対策に関する日本の協力を出席者に説明しました。同会合では、ブラジル国内の各地域の元国費留学生の組織の代表者から、新型コロナウイルスが収束しない中で、ともに国費留学生制度や日本文化の発信に努めていきたい旨の発言があった。

山田大使による開会の挨拶は[こちら](#)を、新型コロナウイルスの取組についての[説明・資料（ポルトガル語）](#)はこちら。



会合の様子

(2) 天皇誕生日（ナショナル・デー）の祝賀

2月23日、日本大使館は、天皇誕生日（ナショナル・デー）の祝賀を実施した。日本のナショナル・デーは、天皇誕生日にレセプションの形で例年祝賀されてきたが、本年は、新型コロナウイルス感染症による制限を受け、オンラインでのイベントとなった。

「新しい未来で会いましょう（Juntos em un Novo Futuro）」とのスローガンの下、このオンライン・イベントを通じ、コロナ禍の困難を乗り越え、科学

技術を発展させていく中で、新しい未来において再び会いたいとの願いを共有した。

本動画では、日本の文化、科学技術、観光地、東京オリンピック・パラリンピックに向けた準備、新型コロナウイルス対策に関するブラジルへの協力を含み、今日の日本の様々な側面を紹介している。また、日系社会を含め、日ブラジル関係にゆかりに深いブラジルの方々が登場している。

オンライン動画は、以下の[リンク](#)より視聴可能。

(3) 令和元年度草の根・人間の安全保障無償資金協力の供与式（在レシフェ総）

2月4日、佐野在レシフェ総領事はファビアーノ・デ・クリスト社会福祉団体ロドルフォ・アウレリアーノ支部（レシフェ市）において、令和元年度草の根・人間の安全保障無償資金協力の供与式を実施した。

- ・ 案件名：レシフェ市 ヴァルゼア地区社会福祉団体施設改修計画
- ・ 供与限度額：72,026 ドル（伯貨：292,429 レアル）
- ・ 本計画では、ペルナンブコ州レシフェ市ヴァルゼア地区にある施設（ファビアーノ・デ・クリスト社会福祉団体）の安全性及び環境の改善を図り、同地域における、基礎教育の質の向上や高齢者の自立支援に寄与する事を目的として、屋根 1,310 m²及び非常口（2カ所）の改修並びに避雷針システムの設置を実施した。



記念プレート除幕式
(佐野在レシフェ総領事とサンデジ支部長)



空手と当地のダンス（フレーボ）を披露してくれた施設の子供達



改修された屋根